

海外情報



ノンウーヴンズ・マーケット特約

■南米

今後10年でSAPの使用が急増

エルディブ・エンジニアリング&リサーチ社によると、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン、ベネズエラ、コロンビアで、高分子吸収ポリマー（SAP）のサニタリー関連製品での使用が、今後10年で倍増すると予想される。

現在、ラテンアメリカ諸国におけるサニタリー関連のSAPのシェアは、85%が紙おむつ、10%が女性用サニタリー製品、5%が大人用紙おむつである。

2005年までに紙おむつは70%に減少し、女性用が20～25%に増加、大人用紙おむつが5%を維持すると見られる。

SAPの使用量は今後、年間10～20%ずつ伸びていく見込み。これまで、ラテンアメリカでは嵩高の紙おむつが好まれ、嵩高製品に吸収力があると考えられていたがテレビ広告や教育により、最近では意識に変化が見え始めた。

米国や欧州では紙おむつに12gのSAPが使用されているのに対し、ラテンアメリカでは平均2gしか使用されていない。メキシコやブラジルでは、今後もっとも早くSAPベースの製品が利用されていくと予想される。

■P&G社、SCA社（米国、欧州）

サニタリー関連が好調

大手サニタリー関連2社、プロクター

&ギャンブル（P&G）社とスヴェンスカ・セルローサ（SCA）社の第3四半期のサニタリー製品は売上、収益ともに増加した。

SCA社の第3四半期のサニタリー部門の売上は、前年同期比で32%増の301億3,000万クローネとなった。この売上増の13%はジョージア・パシフィック社ティッシュ事業の合併によるもの。また、営業利益はティッシュと大人用紙おむつ製品の販売価格の上昇、売上数の増加、合併効果により、58%増の32億3,000万クローネとなった。

P&G社の第3四半期のベビー用、女性用、家庭用ケア製品事業の売上は、前年同期比で4%伸びた。しかし全体の売上は、不利な為替レートにより、1%減の30億ドルとなった。純利益は、原材料価格の低下、コスト削減により、4%増の3億4,200万ドルとなった。

■キンバリー-クラーク（K-C）社（米国） 2002年事業計画を発表

K-C社は2002年収益目標達成を目指して、コスト削減と改善・投資などの事業計画を発表した。

同社は、ラテンアメリカの4生産工場、米国の1生産工場を閉鎖し、全体で1,400人を解雇する。閉鎖により、2003年に2,500万ドル節減できるが、第4四半期の9,000万ドルを含み、税込み1億2,000万ドルの費用がかかる。

また、同社は消費者関連以外の事業を統合し、グループ企業を形成する。同グループの関連事業にはヘルスケア、不織布、ポケットティッシュ、加工紙事業が含まれ、売上全体の25%を占める。

主力のパーソナルケア部門は、同社売上の40%を占めるが、02年には全主要製品ラインの改造を計画している。

この製品ラインには、紙おむつ、トレーニングパンツ、大人用紙おむつ、生理用品が含まれる。さらに、02年第1四半期にP&G社が米国で紙おむつの新製

品を発表することを予想して、新製品開発、マーケティングの変更も計画。

■タイコ・インターナショナル社（米国） パラゴン社の買収計画を発表

タイコ社は、米国最大のプライベート・レーベル紙おむつメーカーのパラゴン・トレード・ブランド社を5億6,500万ドルで買収する計画であると発表した。タイコ社はパラゴン社の8,500万ドルの負債も引き受けるため、買収費用の総額は6億5,000万ドルとなる。

パラゴン社の製品をタイコ社のサニタリー製品ラインに加え、小売、病院関連市場に販売することで、生産効率の大幅アップが期待できる。またタイコ社は米国のプライベート・レーベル市場でさらなる大規模合併を行う計画。

タイコ社のケンダル・コンファブを含むヘルスケア部門のサニタリー製品は、以前はパラゴン社が主要な競合相手であった。ケンダル・ヘルスケアでは、失禁用製品など医療用の製品を生産している。

合併により、タイコ社はラテンアメリカとアジアに生産拠点を所有することになる。パラゴン社はメキシコ、アルゼンチン、コロンビア、ブラジル、中国に合弁生産設備を所有している。

■ブリティッシュ・ベトリウム社（英国） 不織布関連事業の売却を中止

BP社は不織布・織物事業と関連事業の売却中止を発表した。これらの事業の入札価格が予定していた金額に満たなかったことが中止の理由。同社は中期的には再度の売却は考えておらず、事業変更の計画もない。

同社は、米国に4カ所、ドイツに1カ所の不織布の生産拠点を所有している。米国の拠点には15のニードルパンチ・ラインがあり、年間1万7,000t生産している。

製品はジオテキスタイル、カーペット素材、家具などの用途に使用されて

いる。ドイツの拠点には、カード式ラインが3ライン、スパンボンド・ラインが1ラインあり、サンタリー、医療用の製品を生産している。カード式不織布の生産能力は1万9,000t。

さらに同社では、ドイツのサンタリー・工業用フィルム工場など5カ所の拠点も売却の対象になっている。また、織物カーペット、ジオテキスタイル、パッケージング材などを生産するメキシコ、オーストラリア、ブラジル、英国、ハンガリー、ポーランドの拠点も売却先を探している。

■プロクター&ギャンブル (P&G) 社 米でパンパースの新製品

P&G社は、2月から米国で販売するベビー用紙おむつを“パンパース・プレミアム”から新製品“パンパース・ベビーステージ”に切り替える。新製品は赤ちゃんの発育段階に合わせた3つの製品展開となっている。欧州ではすでに01年8月に販売開始し、好調な売上を示している。新製品は現在のパンパース製品価格と同額にする。

また、P&G社は、オハイオ州のチェンジング・パラダイム社とライセンス提携して、パンパース・ブランドで家庭用クリーナーの販売も開始する。

米国紙おむつ市場において同社のライバルであるK-C社は、P&G社の新製品販売を予想して、紙おむつ“ハギーズ”製品に改良を加えると発表していたが、詳細は明らかにされていない。

■ポリマー・グループ (PGI) (米国) 債務不履行で新規融資の必要

世界第3位の不織布メーカーであるPGIは、01年12月に先順位債権者の債務不履行に陥り、支払猶予契約により、3月29日までに各大口貸付銀行との間で新規の融資契約が必要となった。同時に、各貸付機関は、PGIの上位劣後債のうち、9%を占める07年期日の上位劣後債所有者への1,780万ドルの利子支払

いの差し止めに動いた。

同社は4月以降、先順位債権者の財務制限条項を放棄しており、それにより負債を1,500万ドル減らす計画であった。受取勘定手形の売却、リース契約付き売却によって12月29日までに1,500万ドルの負債を返済する計画であったが、これに失敗したことが、債務不履行につながったといえる。メルリリンチによると、11月2日の時点で、同社の長期債務は資本比率の83%となった。

不織布業界全体と同様に、PGIの事業は、レジン価格の高騰と業界内の過剰供給により大きな打撃を受けた。同社はまた高品質のAPEX素材の販売でも苦戦を強いられていた。

■ジョージア・パシフィック社 (米国) 新規チームで新製品・技術を展開

フォート・ジェームス社不織布事業の買収から1年経過したG-P社は、新規マネージメント・チームの元で、不織布の新製品、新技術を発表する。G-P社は今年いくつかの新製品を発表し、今後フォート・ジェームス社のエアレイド技術を使用した製品を開発する計画。また、新しい機械を導入し、提携先も探して、新製品を提供していく予定だ。

G-P社は、昨年110億ドルでフォート・ジェームス社を買収したが、その中に生産能力6万6,400mt、売上約1億2,500万ドルの不織布事業が含まれていた。

フォート・ジェームス社は世界第2位のティッシュ・タオルメーカーで、エアレイド不織布メーカーとしても大手で、同社はパルプベース・エアレイド不織布市場シェアの35%を占有していた。

買収した生産能力のうち2/3は米国にあり、残りはフランスとイタリア。全体の生産能力は、01年世界のパルプベース・エアレイド生産能力の約18%。

■BBA社 (米国)

米ペンシルベニア工場を閉鎖

英国のBBA社は、米国ペンシルベニ

ア工場を2月末までに閉鎖し、従業員124人を解雇すると発表した。同社は、今後、コスト削減、生産能力縮小を行い、主力の産業用不織布・サンタリー事業に注力していく。

同社は、昨年、ペンシルベニア工場のサンタリー製品生産部門をサウスカロライナ工場に移転した。その際、ペンシルベニア工場の従業員125人を解雇したが、同工場はその後フィルター、バッテリー、電気、アパレル用などの製品を生産。サンタリー製品の生産移転に伴い閉鎖されたカード式ラインの今後の処置は未定だが、残る湿式ラインは小規模で旧式なため廃棄される模様。

今回の工場閉鎖は、00年にアールストローム社がデクスター社を買収し、さらに米国、欧州で湿式不織布と水流絡合不織布の生産能力を拡張し、この分野でトップの座に躍進したことに起因する。また、スパンレースが湿式不織布に取って代わり、世界的に利用が拡大したためともみられている。

■2001年世界の不織布メーカー

生産能力トップ10に著しい変化

2001年の世界の生産能力トップ10不織布メーカーの順位は、合併と生産能力増強によって大きく変化した。トップ10企業の生産能力は、99年の統計と比較して17%増の約1,600万t増加。中でも、過去2年間、多数のラインを稼働させてきたキンバリー・クラーク (K-C)社は、第1位のBBAグループに次ぐ第2位につけた。

一方、トップ10から外れた企業も数社出た。たとえば、99年に第7位だったデクスター社は、アールストローム社に買収されてリストから消えた。買収後のアールストローム社の不織布事業は、デクスター社単独よりも生産能力が30%増加したが、第7位に留まる。

エアレイド分野では、コンチェルト・インダストリーズ社が第9位に入った。

また、第6位でエアレイド市場最大手のバックアイ・テクノロジーズ社は過去2年で2/3以上生産能力が拡大した。

生産能力ランキングは、01年末の時点でのマーケット状況を示すものにすぎない。状況は常に変化している。第1位のBBAグループは、過去2年、多数のラインを改良し、旧型で効率の悪いラインを閉鎖してきた。また、第4位のポリマー・グループは事業内容を見直し、大幅な改革を計画している。

K-C社は主力のサニタリー/医療市場での需要に対応した生産設備の近代化、生産能力増強に努めている。

■アールストローム社（米国）

BBA社の湿式不織布事業を買収

アールストローム社は、世界の湿式不織布市場での地位を確立するためBBA社のペンシルバニア州ルイスバーグ工場の湿式不織布事業を買収する。

アールストローム社によると、同事業の買収には、BBA社の湿式不織布生産に関わる顧客情報、製法、特許、生産設備が含まれる。98年にBBA社がインターナショナル・ペーパー社から買収した同工場は、アパレル、フィルター、特殊テープを生産する。年間売上は1,500万ユーロ。

アールストローム社は、買収資産をどのように利用していくかは決定していない。BBA社は、2月末に同工場の閉鎖すると発表。工場閉鎖に伴い、127名の従業員が解雇される。同工場では昨年125名を削減、サニタリー製品の生産はサウスカロライナ州の工場へ移転。

■トレデガー社（北米）

急成長のワイパー分野に進出

米国の大手フィルムメーカーによれば、北米の紙おむつ素材市場は年々状況が厳しくなっている。トレデガー・フィルム・プロダクツ社は、ニューオーリンズで開催されたヴィジョン2002コンシューマー・プロダクツ・コンファレ

ンスで、同社はタオル生産へと事業転換する可能性があると発表した。

同社は、ドイツの消費者関連メーカーのバイエルスドルフ・グループと提携して、ニベアスキン&ヘアケア事業向けに、強化フィルムワイパーを開発している。これはトレデガー社にとって初の紙おむつ以外のサニタリー製品で、この有孔フィルムにはさまざまな利点がある。粗目地クロスのような剛性がワイパーの重ね合せを容易にし、剛性と浚水性がワイパーの離れを容易にしている。さらにフィルムの円錐形の目がローションを保持する。同フィルムは比較的安価で生産が可能。

■キンバリー-クラーク（米国）

2002年の売上を6~8%増と予想

キンバリー-クラークは、昨年はいくつかの年で最悪の年であり、第4四半期にはアルゼンチンとブラジルで売上と収益がそれぞれ30%減少したと発表した。低迷する経済が同社の北米ビジネス事業部門を直撃した形。また売込み中のコットネール・フレッシュ・ロールワイプも不調を続けている。

こうした状況にもかかわらず、02年の売上は6~8%増、1株当たり利益は10%増と予想している。同社は、東欧、アジア市場で成長の可能性があるが、北米では大人用紙おむつが05年まで2桁成長が期待できるとしている。02年第1四半期には、新製品の全世界販売を推進し、製品の改良も行っていく予定。

01年の同社の収益は前年比9.7%減の16億3,000万ドル、売上は昨年比3.9%増の145億ドルであった。昨年第4四半期では、収益は21.4%減の3億5,830万ドル、売上は2%増の37億ドル。

■グリーン・ベイ・ノンウーヴンズ社（米国）

ワイパー用水流絡合ラインを計画

グリーン・ベイ・ノンウーヴンズ社は、顧客からの要請により、工場規模を倍増し、ワイパー用の水流絡合ライン

を設置する計画であると発表した。

同社はライン、カードメーカーを決定しておらず、さまざまな短繊維を異なるスピード、目付け量に対応して柔軟に加工できる機械を選定中である。同社はさまざまな省エネ要素の組み合わせによって低コストの製品を生産できると考えている。

新ラインの生産量の約半分は生産者用のワイパーに向けられる。素材はカナダ、欧州、米国に出荷される。

設備の内訳は6月までに決定される。新ライン設置により、30~35人の従業員が雇用される。新ラインは既存の工場と同様、6万5,000ft²の土地が必要で、費用は約50万ドル。生産能力は年間1万2,000tである。

■トレデガー社（欧州）

欧州で新規に2ラインを設置

トレデガー・フィルム・プロダクツ社は、イタリアで透過性フィルムラインを設置し、さらに他の欧州拠点に第2ラインを今年半ばに設置すると発表した。

トレデガー社は欧州で他にオランダとハンガリーに生産拠点を所有している。2ラインのうち1ラインは生理用品のトップシートを主に生産する。もう一つのラインもトップシートの生産が可能で、さらに通気性のあるラミネートとワイパーの複合素材といった幅広い製品も生産できる。

同社は、設置場所や金額についての詳細は明らかにしていないが、2ラインともイタリアのプロメア・エンジニアリング社製であり、トレデガー社は00年10月に購入している。

トレデガー社は、自社について、サニタリー・ヘルスケア市場における、透過性、通気性、弾力性があり、エンボスを施した不織布ラミネートフィルムの大企業メーカーと位置付けている。同社の01年の売上は3億8,300万ドルで、00年から1%アップした。